



12
2015. Dec
No.725

誇りを胸に、舞う



いま これから の現在と未来



感動あり。

平 成27年春、篁岳中学校と
涌谷中学校が統合し、新
生の涌谷中学校が誕生。その統
合の裏側で、篁岳中学校におい
て昭和56年度から「ふるさと教
育」の一環として、そして、篁
岳中学校の伝統として受け継が
れてきた篁岳白山豊年踊りの伝
承が途絶えてしまう危機が訪れ
ていました。

「保存会」はこれまでも存在
していましたが、会員数は少な
く、高齢化が進んでいる状況に
ありました。そういった地域の
伝統の危機に、篁岳地域の有志
が立ち上がり、「篁岳白山豊年
踊り保存会」が改めて発足され
ました。そして、今後将来にわ
たり「篁岳白山豊年踊り」を受
け継いでいく後継者を育成して
いかなければならないという機
運が篁岳地域で高まり、会員の
若返りと拡大が図られました。

現役の中学生のほか、篁岳中学
校の卒業生が加わり、会員数は
50名に。

今年6月以降、「新生保存会」
は、第2・4土曜日の夜、主に
篁岳公民館を会場において、踊
りの伝承活動が行われています。

— 特集 — 籠岳白山豊年踊



地域愛が舞うところ、笑いと

決して順風満帆ではない船出
保護者の協力もあり、勉強や部活動、仕事の合間を縫い中学生と高校生、そして、指導者として20代の社会人が集い、若い世代を中心とした伝承の仕組みが完成。

一方で、活動運営費の不足という大きな問題を抱えています。活動には楽器や衣装等の道具が必要不可欠ですが、長年使い込んだ道具類を更新するためには、莫大な費用を要します。ほぼ全生徒徒で取り組んでいた籠岳中学校時代には、同窓会費や教育振興会費から工面し、徐々に更新しておりましたが、新生涌谷中学校となった現在、他の学校の取り組みとの兼ね合いもあることから運営費を頼ることが困難となりました。「新生保存会」の発足時に、地域から寄付を募り、また、涌谷町の「かがやく協働まちづくり補助金」に申請し採択されましたが、まだ十分ではありません。現在は保存会の役員を中心に負担している現状。安定した「保存会」の運営と「籠岳白山豊年踊り」を外部へ発信していくためにも寄付の仕方を浸透させていくほか、運営費の確保に向けた動きをとっていく必要があります。



阿部 英香 さん(太田区)
籠岳白山豊年踊り保存会に今年参加。中学校時代は大太鼓を担当。出産を控え、現在は活動を休止。子どもが生まれたら「ばち」と「太鼓」をプレゼントしたいと話す。

籠

岳中学校が統合によってなくなってしまうと聞き、同時に大好きな「籠岳白山豊年踊り」がどのようになってしまおうのか、本当に不安な気持ちでした。

地元のお米が好きで、その米づくり・稲作文化の一連の所作を踊りに表現している「籠岳白山豊年踊り」が好きで、中学校に入ってからすぐに習い始めました。それまで指導してくださっていた先生方が全員転任してしまふということがありましたが、大好きな踊りを後輩たちに伝えるために自分たちでどうにかしたいといけないうい思いで、朝・昼・放課後と毎日のように一生懸命練習しました。保存会が改めて発足する

と聞き、踊りを守っていくために、あの時と同じように若い世代の自分たちが、何とかしないといけないと思ひ、引越していた同級生にも声を掛け、会に入りました。



猛練習の結果、籠岳中学校歴代で指折りのお囃子に。文化祭では高熱を帯びてお舞台に立ったほど籠岳白山豊年踊りが好きな英香さん。

今年から涌谷中学校でも授業の一環で「籠岳白山豊年踊り」に取り組み、多くの生徒が興味を持ってくれていると聞きました。今は出産を控えていて出向くこ

絶やさないだけでなく、愛される伝統へ

踊りを守るために

私ができること

とはできませんが、子ども

が生まれたら保存会での活動のほかに、涌谷中学校にも行き、興味を持った生徒たちに教えていきたいです。

自分自身も出産後は、大太鼓の一員として姉弟で共演したいし、共演できることを誇りに思います。そして、涌谷町内だけではなく、

もっと外に出て踊りの良さを伝えていき、たくさんの人に愛される「籠岳白山豊年踊り」にしていきたいです。踊りを守るために立ち上がってくれた保存会の大友さんや土生木さんには、本当に感謝しています。

今度は、自分たちがその思いや期待に応えなければいけないと考えています。



誇りとともに、 稲作文化を伝承。

籠岳白山豊年踊りは、^{あぜ}畔づくり・代かきに始まり、種まき、苗取り、田植え、稲刈り、俵担ぎの順に、米づくりの動作を所作にしています。

「神は細部に宿る」という言葉がありますが、地域の稲作文化も同時に伝承していくために、細かな動きにまでこだわり、指導が行われます。

(上) 練習後、個別に質問し、所作の指導を受ける。

(下) 稲刈りの前の「米の出来栄確認」。視線まで含めて所作として完結。目の前に刈取り間際の稲穂が広がるのが見えませんか？



地域社会の形成

菅岳白山豊年踊りによる

地域が踊りを守り、踊りが地域を守る



第2・4土曜日の夜行われる練習には、20人以上が世代・性別を問わず集う。

保存会の発足により「菅岳白山豊年踊り」の伝承は、地域の人々によって守られることになりました。

守られた「菅岳白山豊年踊り」が地域にもたらしたのもあります。それは、「菅岳白山豊年踊り」を核とした新たな地域社会の形成です。

今回取材にに応じていただいた保存会の方々は、次のように話します。「高校進学によって普段会うことがなくなつた地元の友達や先輩に会えることが楽しい」「社会人になって遠くに引越した友人と連絡をとるようになった」。

自分たちが長年取り組んできたことを守りたいとい



う思いが、若い世代をつないでいきました。

また、「菅岳白山豊年踊りの指導者として保存会にかかわっていきたい」という声も聞かれます。学校とは違った地域社会の場において、先輩が後輩を育てるという世代間交流が行われ、「人口減少」と「高齢化」が進む中、「菅岳白山豊年踊り」によって地域が守られようとしています。

涌谷町全体のこころとして

「菅岳白山豊年踊り保存会」として、今年も、伊達かつぱの里まつりやわくや夏まつり、町民文化祭、JA祭、秋の山唄のほか、大崎市田尻で行われた県民文化祭と数多くの舞台に出演し、多くの笑いと感動を与えてきました。多くの町民の皆さんが、どこかで一度は目にしたのではないのでしょうか。

皆さんが味わった笑いと感動を涌谷町の誇りとして他の地域に、そして、子孫に伝えていくためにも、船出したばかりの若い「菅岳白山豊年踊り保存会」を町全体のこころとして考えてまいります。



会場を包む拍手と歓声、時には涙が、踊り手たちに地域の伝統を守ることの誇りを胸に宿します。

2つの全国大会への切符を手にした快挙

涌谷第一小学校が全国大会出場



涌谷第一小学校マーチングバンドが、10月18日(日)に開催された「第34回全日本小学校バンドフェスティバル」と11月7日(土)に開催された「第44回マーチングバンド・パトントワーリング」の東北大会で優秀な成績を収め、全国大会への切符を勝ち取りました。

大阪府と埼玉県でそれぞれ行われる全国大会の結果については、分かり次第「広報わくや」でご紹介します。

健康で明るい地域づくりに貢献

坂本兼也氏が厚生労働大臣感謝状



10月14日(水)に、多年にわたり大崎地区薬物乱用防止指導員として薬物乱用防止啓発活動に尽力し、健康で明るい地域づくりに貢献したとして、平成27年度麻薬・覚醒剤乱用防止運動を実施するにあたって厚生労働大臣から感謝状が贈呈されました。

今後、地域社会での麻薬・覚醒剤など薬物乱用の未然防止のため、活動をお願いいたします。

これからも健康で長生きを

後藤あきゑさんが満百歳の誕生日



10月11日(日)に、上谷地区の後藤あきゑさんが、満百歳の誕生日を迎えられました。

町では、10月16日(金)に訪問し、お祝いの言葉をお贈りするとともに、敬老祝い金を贈呈いたしました。

後藤さんに「これからも元気に長生きしてください」とお伝えすると「ありがたい」と元気に返事をくださいました。

ますます長寿でありますようお祈りいたします。

涌谷太鼓が昨年のリベンジ!

東北和太鼓競演大会で優勝



10月18日(日)に、栗原市で開催された「第28回東北和太鼓競演会」において涌谷太鼓が優勝しました。

昨年は準優勝だったこの大会。今年こそは優勝すると、涌谷太鼓に所属する子どもたちが休日返上で練習に励んでいたそうです。

また、11月1日(日)に、石巻市で行われた「第18回日本太鼓Jrコンクール宮城県太鼓フェスティバル」でも3位に輝き、東北大会への切符を手にしました。

小里地域の民話や伝承を題材に

小里小学校の最後の学芸会

10月17日(土)に、小里小学校において来春の笠岳小学校との統合前最後の学芸会が、「全力協力 小里力みてつてけらいん おらほ最後の学芸会」のローガンのもと開催されました。

最後の学芸会ということ、143年もの歴史を誇り、地域とともに歩んできた小里小学校らしい学芸会にすべく、小里に伝わる民話や伝承を綴った「小里物語」や「小里の昔話と伝承」という書籍に基づき、小里小学校の先生方によって地域の自然や歴史、生活する人々の思いが込められた劇へと書き上げられました。



(上) 1年生による愛らしい「山の子 里の子 きつねの子」
(下) 未来の荒廃した「OSATO CITY」を舞台にした6年生の劇「未来へ～小里のころ～」で、現代から未来に向けての警鐘を鳴らした【その他の演目】3・4年生による群読「どっこいしょ」2年生による劇「小里村のいたずらかっぱ」3・4年生による劇「昔話 小里の湯っこ」5年生による劇「右京坂の秀吉先生物語」全児童による「終章～そしてふるさと～」で昔の遊びの表現と「火伏せの獅子舞」の誕生を紹介

最後まで口から食べたい願いを叶えるために

地域栄養サポートチームの研修会

10月16日(金)に、医療福祉センターにおいて気仙沼市の歯科医師の一瀬浩隆先生を講師に「気仙沼で広がる『食べる』取り組み」と題し、研修会を開催。食べるためにはまず、口腔の環境を整え、食べないことの原因をきちんと見極め、口腔ケア等を正しく行うことと「口から食べる」ことの重要性を気仙沼市立本吉病院の事例を交えて紹介されました。



芸術に彩られた涌谷の秋

第39回町民文化祭を開催

10月30日(土) 11月1日(日)の2日間、涌谷公民館において町民文化祭が開催されました。会場内には所狭しと涌谷町内の文化芸術団体・個人の作品をはじめとし、小中学校の児童生徒の作品が展示されたほか、ステージでは「お茶屋節」や「笠岳白山豊年踊り」等の伝統芸能、「オカリナ」や「ダンス」等のサークル活動の成果が披露されました。





収穫の喜びをお世話になった方々と味わう

さくらんぼこども園で収穫感謝祭

10月29日(木)に、さくらんぼこども園において日頃お世話になっている方々をお招きし、園の畑で採れたさつまいもを使った「さつまい」でおもてなしする収穫感謝祭が開催されました。

「さつまい」には、園児の皆さんが切ったさつまいもや大根で具だくさん。おいしくできあがり、おかわりをする園児が続出。充実の実りの秋を楽しんでいました。



34チームが大熱戦！ 涌谷町長旗争奪少年野球大会

涌谷ブルースターズが第3位

10月4日(日)に、涌谷スタジアムを会場に、第22回涌谷町長旗争奪少年野球大会が開催されました。この大会には各地の少年野球チーム34団体が出場し、熱戦を繰り広げました。

地元涌谷町から出場した涌谷ブルースターズは、Aブロックで優勝。その後臨んだ決勝トーナメントで残念ながら敗れはしたものの、総合第3位の成績となりました。



しろやま さん
城山の金さん徒然日記

黄金パワーをレディース選手にも

11月8日(日)に、ユアテックスタジアム仙台で開催された「なでしこリーグ」エキサイティングスタジアムのベガルタ仙台レディースの最終節にお邪魔し、男子トップチームに続き、涌谷町で採れた新米を贈呈してまいりました。

この日は、冷たい雨が降るあいにくの天候。前半浦和レッズレディースの攻勢になすすべく先制されるも、後半勢を取り戻したベガルタ仙台レディースが同点に追いつき、アディショナルタイムに逆転勝利するという劇的展開に！「黄金パワーが効いた！」とは言わぬが、わしの思いが通じたのかもしれない。来シーズンのさらなる活躍を期待いたします！



写真) 雨のためわしはおらぬ。大橋町長から高橋選手に黄金米を贈呈

子育て支援サークル・おひさまスマイル活動報告

ハッピー・ハロウィンパーティー

10月25日(日)に、世代館において毎年恒例のハロウィンパーティーを開催しました。好きなイラストを描いてお菓子をに入れるバッグを手づくり。その後、「トリックオアトリート」の合言葉でお菓子をもらったり、みんながALIT(外国語指導助手)のシヨーン先生と英単語を使ったゲームをしたり、大きな風呂敷バルーンを使って遊んだりしながら、子どもも大人もハロウィンを楽しみました。

個性あふれる衣装をして参加していただいた家族写真はおひさまスマイルのブログで紹介しています。

ご覧になられた方は、おひさまスマイルで検索を。



写真) 昨年よりもグレードアップしている衣装した参加者の皆さん

夫婦で勝ち取った第31回大会の優勝

秋の山唄

11月14日(土)15日(日)の2日間、第31回秋の山唄全国大会が行われ、少年少女の部27名、寿年の部53名、一般の部84名の方々が、北は北海道、南は愛知県と全国各地からエントリーされ、自慢の唄声を競い合いました。



一般の部 優勝
柴崎光子さん(仙台市若林区)



一般の部 準優勝
木村里美さん(山形県大石田町)



少年少女の部 優勝
鈴木翼くん(涌谷町)



一般の部 第3位
伊藤慶一さん(大衡村)



寿年の部 優勝
岩上武幸さん(北海道江別市)



民謡ガール育成プロジェクトによって
民謡「秋の山唄」を始めた
堀内みのりさん



民謡ガール育成プロジェクトの軌跡は上記QRコード(YouTube)からご覧ください。

15日(日)の決選後、一般の部で優勝した柴崎光子さんによって麓岳山麓家守寺の観音堂前において、大会時と同じく、旦那さんの尺八伴奏で秋の山唄が奉納されました。夫婦二人三脚で勝ち取られた麓家守寺杯の栄冠。準優勝には、友好交流都市の大石田町から参加された木村里美さんが、第3位には、第26回大会寿年の部で優勝した伊藤慶一さんがそれぞれ選ばれました。

また、涌谷町黄金大使の大和優雅監督による「民謡ガール育成プロジェクト」から堀内みのりさんが出場し、民謡歴約5か月で堂々と唄声を披露されました。

度、始まります！

平成28年1月から、社会保障・税・災害対策の行政手続で、すべての方に付された12桁の番号「マイナンバー制度」の運用が開始されます。



マイナンバーキャラクター「マイナちゃん」

マイナンバー（個人番号）とはなんですか？

住民票がある方すべてに、一人に一番号ずつ付される番号です。原則として一度指定されたマイナンバーは生涯変わりません。

自分のマイナンバー（個人番号）を確認するにはどうしたらよいか？

平成27年10月中旬から11月下旬にかけて世帯単位で簡易書留で送付されたマイナンバー（個人番号）を記載した「通知カード」からご確認ください。確認した後、「通知カード」は、大切に保管してください。

マイナンバー（個人番号）カードの取得は義務付けられていますか？

「マイナンバー（個人番号）カード」は、申請に基づいて市町村長が交付することとなっております。義務ではありません。しかしながら、各種手続きにおけるマイナンバー（個人番号）の確認及び本人確認の手段と

して用いられ、くらしの利便性向上につながるものから、できるだけ多くの方に取得していただくことを願います。

マイナンバー（個人番号）カードを受け取るにはどうしたらよいか？

「通知カード」を受け取られた方は、同封の申請書を郵送することで、平成28年1月から町の窓口で「マイナンバー（個人番号）カード」を受け取れます。受け取りの際には「通知カード」及び「交付通知書」とともに「住民基本台帳カード」又は「本人確認書類（運転

免許証や運転経歴証明書、旅券、身体障害者手帳等）をご持参ください。

個人情報を守られるの？

マイナンバー制度では、国税や年金、児童手当・生活保護に関する情報などがそれぞれ関連する機関で分散して管理されることから、マイナンバー（個人番号）から芋づる式に抜き出せない仕組みとなっています。また、他人のマイナンバー（個人番号）を不正に入手したり正当な理由なく提供したりすると処罰されることがあります。

マイナンバー制度って、
どんな制度なの？

